

池田さんへ

広島の日日間についてでは原ばくが六日の

日に落とされて、たくさんの人たちが

亡ったり、やけどをしたりして、想像を

するととてもこわかったです。やけどをして

ひらがとれ、肉や骨が見えるくらい

で、とてもかわいそうでした。何人もの

亡っている人ややけどをしてしている人を

運んでという作業を何日もや、ている

というので、びっくりしました。

小さい子が服をひ、はって、案内を

すると、女の人がやけどをしていて、

包帯をまいているけど、血がにじんで

包帯をとりかえようとし、とろうとすると、

悲めいをあげたと聞き、とても

いたそうでした。たくさんのお人の

手あてをしてとてもすごいと思ひ

ました。絵を見るよりも想像をした

ほうがこわいと思ひました。

これからも友達や家族を大切に

したいです。広島の日日間について

いろいろと教えていただき、

ありがとうございました。

田口 了基

池田さんへ

ぼくは 広島や かが きの原はくについて 『はたしのが』  
などで なんとなく たゞけど 原はくのことはしていま  
した。たゞけど 本、マンガとちが い 話は いろん  
なる なるを ぶくらませ 池田さんのお父さんの できご  
と、広島 の 九日間のお しろしさが った 名、てき  
ました。人の ぶか づれ おちせり人の おんき  
など ざんごくという しべしで は ずまない  
とおもいます。

そして 原火暴の ころぞうに ついて も びくりに  
ました。つを とかす 温度の 約10倍の 温度  
だんてま。たぐ なるぞうつきません。

原火暴の 後の こと 今 じゃ ありません。  
死体 に うごめく ウジや ハエ など ちきも  
ちあるく てきいてる たりけで やた きろん  
に たりました。それを 池田さんのお父さん  
は ちくせつ 体 けんした なんて ずいぶん  
もう に ぶと ころ なること かが おこら ないた  
うに したいです。

六年一組 北岡 真汰

池田さんへ、 「広島の九日間」の話をきいて

池田さん、桃二小に来てくださって、ありがとうございます。

私は、池田さんのお話を聞いて、怖いと感じたけれど、池田さんのお父さんのほうがもっと怖い思いをしたんだなと思います。あらためて、平和なんだと知りました。

池田さんのお父さんは運が良いとも思います。たまたまドラム缶の影にかくれて、+X子ルはふるとんだものの身かはかるく、部下の人たちと状況をしらべていると、皮ふかばかれおちた人たちが「兵隊さん、助けてくれ」と手をさしのべても、勇気をふりしほってこわがらずトラックにのせた池田さんのお父さんはすごいと思います。

島に無事帰ることができたお父さんは、よっぽどうれしかっただろうな、と思います。

私は、これからもっと、人を大切にしようと思います。

山下 枝里子

池田さんの話を聞いて

僕は今まで原子爆弾について知りませんでした。しかし、池田さんの話を聞いて原子爆弾に対してぞっとするような恐怖感を覚えました。

たった1発で12万人も死んでしまったなんてとても信じられません。僕がとても怖いと思ったのはトラックに被爆者を引き上げる時に皮膚がずるとはがれ落ち、赤い肉が見えたということでした。

又、原子爆弾投下予定地に広島と長崎以外に小倉が入っているということがおどろきでした。

しかも、元安川での遺体の焼却作業は想像するだけで目を伏せてしまうほどでした。

しかし、帰隊の日に最後に女の人が助けられてとても良かったと思いました。話は最初の方に戻ります。

池田さんのお父さんが原爆の被害をまぬがれたのは様々な偶然が重なったのだと思います。

とても良かったなと思いました。しかし、アメリカ軍はどうしてこんな残酷な兵器を作ったのだろうかという

思いが立ちこめました。僕はこのようなことをこれから心にとめ、平和な世界がおとすれたらいいなと思っています。

池田さんへ ー広島の話を書いてー

私は今回の話を聞いて、良かったと思います。

なぜかと言うと、広島に原爆が落ちたのは知っていたけど、ここまで色々な人が苦しんでいるとは、

池田さんが「広島の日間」を聞いたからです。

私は、元安川での作業を聞いた時

『人間の皮ふがはがれ落ちる』ことや、

『人が人の姿ではなくなっている』と言う事を聞いて、想像すると、とてもこわくて、

「顔を反対の方に向ける」と言う言葉には、

「そうだな。」と思いました。

女性を助けた件でも2班の皆さんが

チームワークでうじ虫を取り除き、

女性の事を、交際でおぶるのは、やはり、

チームワークがあり、それに立ち向う勇気が

あったからだと思います。

今回のこの話の人の人々を褒めていきたいです。

石川あこ

池田さんへ

桃二小にわざわざ来て話をしてくれて、ありがとうございます。  
話を想像すると、とても怖かったです。

30%の死亡率とはすごいですね。

席は三列ですがそのうち1人が死亡ということですね。

当時の様子を想像すると、被爆死者が凄くかわい  
そうに感じてしまいます。

原爆はとてもおそろしいと思います。

兵隊さんのときは大変だったと思います。かわたとも思います。

かわただけと、いい経験になりました。

どうもありがとうございます。

また機会があればぜひまた来てください。

都築 健太

ビロミアの九日間の話をきいて

地田さんへこの前は原ばくの話をしてく  
て、ありがとうございました。原ばくのばくい  
地に近づくとすね、皮膚がたぬさぐ、大人や、  
そして肉が見えて、おんえきかたおている人  
の話を聞いて、ぞっとしました。あと羊をう  
つて歩くといたくて手をななめ前方に出し  
て、歩いているおんてこおれと思ひました。原ばく  
はたた一つで広島市田に万人の命をーしんで  
ばい、24万人も死ばくしてしまうほどのいかに  
もっているおんておそろしいです。あと放身線  
に当たるとはげいおるとやげりにかん系田ほら  
もできやなくなつてぞっとくるしめます。  
任務を完了したおともー火たすけであげたの  
はよかったと思ひます。そのことをお父さんや  
お母さんに教へてあげたいです

池田さんへ

私は今まで広島原爆のことをあまり知りませんでした。  
でも、池田さんの話を聞いて、昔の人が受けた被害をあらためて分かりました。私は、原爆ドームに行き、こんなにひどかったんだ"と思っていて話を聞いて、現実には、もっとひどいんだ"なと思いました。被害の話を聞いた時は、体がぞろぞろとしました。また、どうして日本人がこんなことを受けたのか今でも疑問です。でも昔の人は、今の人にはない強さを持っているなと思いました。

昔、あったことはそのまま今に伝えなきゃいけないなとも思いました。池田さんの叔父さんの9日間、忘れるのは、いけない、すごい9日間だと思います。昔の人よりか今の人には、本当の怖さは、分かりませんが、もっと分かりたいと感じました。日本が受けた現実には、変えられないだ"ということが分かりました。

私は、これから友達を大事にしたり、家族を大事にしたり、していきたいと思っています。また原爆のことをもっとも、と分かっていきたいと思っています。

広島原爆のことを教えてください。ありがとうございます。  
教えてもらったことを身につけていきたいと思っています。

6年1組

太田 彩



ぼくは原爆のことは知っていたけど「そこまで」  
悲しいとは思いませんでした。「原爆一発で20万人  
もの人が死んで」いったこのことを知って原爆は絶  
対使ってはいけな**い**と思ひました。こんな悲しい  
戦争はやってはいけな**い**と思ひました。原爆いつ  
まで「もろくを苦しめる最悪な兵器だ」と思ひました。  
一瞬間にして多くの人々を苦しめた。日本は世界  
で「唯一の核爆国」世界の国々に予して多くの人々  
に原爆の恐ろしさを知ってもらいたいと思ひました。

宇藤 優

## 平和の話聞いての感想

ぼくは今とはちがって、たゞく昔に広島で、おんなにこわいことがあったなよ。しらなからた人たちは、みんなリジビみたい、人をたすけるときに、人間の皮がとれるというのをきいてから、ぼくがそのたすける人にならたら、すこくこわくて、たすけられたいと思いました。広島では、すこくあつくて、水もぬめなからたというのをきいて、すこくかわいそうだなと思った。けんぼくの、ぼくたちの大きさは、小さいのかと思っていて、先生の話をきいていたら、大きいといっていたの、すこくびっくりしました。本やテレビなどでみていたら、おんなよりこわくおそろそうだったけど、先生の話をきいてみたら、想像以上に、こわいというのがわかった。けんぼくのとときにけがした人のきまぐち、みんな、うご虫がいるといっていて、まじにテレビでみたら、「これがきまぐちにいるんだよ」と思ったら、すこくきもられるかな、てきました。今日は、きてくれて、ありがたうございました。

6年3組 坂牧瑛

池田ひとくさんは父が原子爆弾をくらったために骨が弱いという  
病気になってしまいかわいそうだと思う。広島に施設がなかったことも  
原因だけれど、なにより紫色、赤色、黄色、さまざまな色が混ざり合っ  
て、リ-ューンのうちに熱さにおおわれる。無関係なたちが命を落として  
まうのは考えなければならぬ。アメリカ軍に原子爆弾を落とされて  
わく苦しかっただろう。助けを求める姿は真逆で見るとおさんで、問とは  
思えない生き物になっているのだろう。被爆者はすぐに川に入、てまたの  
で川は大混乱したっただろう。原子爆弾は最も強い武器だ。日本は  
これからは戦争をせず、平和に暮らし続けることを願いたい。

赤堀正浩

ぼくは池田先生の話をきいてぞっとしました。体が身ぶるりするほど原子爆弾がこわかったからです。あんな一つの爆弾が、多くの命を断たせた、まさに悪魔のようでした。とくにこわかったのは、被爆して全身おおやけどして、おばけのようになりてくることでした。また、兵士が死んでいる人間をかつきぬぐると皮がむけるところもこわかったです。僕は戦争は世界中がやめ原子爆弾人なとをなくしにどとまのようなことがおこらないでほしいです。そして、世界のみんなが幸せで、広島のようなめにあってほしくなりたいです。あと、世界中の人が広島のような姿をみて、戦争はよくなるとおもってほしいです。先生はこれからも広島のことを伝えたいのにかんがってほしいです。本当にありがとうございました。

6-3 中村 雄一

~平和の話をきいて~ 池田さんの話

僕は、昨日の話をきいて、いろいろな想いかかけ巡りました。寺の門をくぐって、油がいはいに入、700トンの缶に凭れたいなければ死んでいたかも知れないと思うと、ぐくとしました。トラックの運転手も、門の所にいなかったかも知れないかも知れません。その時の閃光や爆発音、爆風はどの想像できません。でも、その時、亡くなった方の親族や友達などの気持ちには幸いものなるとわかります。その後の消火作業では、水ではなく、家を倒して火を揉み消したと語っていたけれど、あまりよくわかりません。でも、相当な苦勞をして消したのだなと思います。桶の中で人が死んでいたというのもまた想像ができません。頭の中で考えると、よくわかんないけれど怖ろしいなと思います。10歳程の男の子が、服を引張って呼び、女の人のもとへ行、たという話もありました。これも運命なのかと思います。ウジという虫は気持ちが悪く、何よりも死にゆく人間がわかるような人間が何人もいるというのは、考えただけで怖いと思います。こういう話はなかなかきけないのでとても貴重な体験だと思います。戦争は二度とやらないでほしいと心から願います。

山田

ぼくはきのうの平和の話を知り、まず最初の方  
を知り、おじろきました。もしあの時トラフが来ていた  
ら池田さんのお父さんも池田さんもいなかったら運が  
あつたかと思はす。それと、人がたんだん人の形し  
なくなつたというは本当にさおつと思ひました。原はく  
にあつた人のシフリカがきれいすぎるなら、あつたひん  
な姿だつたと思ひます。それでもにんむをちこつていて  
すこつたです。例へば遺体を運ぶというのももし  
ぼくがあの場にあつたら絶対にやりたくないです。  
前テレビで原はくががはくを殺したしんかんとして、  
かかすたつたになると言つていたが、まじいそん  
なのを通りこして、気体になつたらいいです。それに  
原はくは、放しやのうがあつて火の身をまのがれた人  
でも放しやのうで病死してしまつた人がたつた人  
です。さらにそれはいひんするので、原はくは、  
本当にこおつておそろしいものだと思ひました。  
最後にぼくはこの時代に生まれて来たことを  
しあつたつたと思ひました。

林 智貴

私は、平和の話聞いて、改めて戦争のおそろしさを知りました。  
今でも戦争のえいほうで、苦しんでいる人が大勢いることが分かりまし  
た。そして、戦争を経験した人の子供までもえいほうかいてしまって、  
大変な人だっと思った。その時のじょうきょうが、とて分かりや  
すく表現されていなくて聞かすからです。(わかすけど)

私は実際に経験した池田さんのお父さんはとてもよかったと思  
いました。戦争で使われはくたんは、とても重くて、大きなかいを  
広島はつけたと思います。目の前が、白い色の世界になるなんて、自分は  
おぼろしいと思います。パニックになるかもしれない。たけ人の人が助けを求  
め、さげらでいたら、おぼろしいかたないと思います。でも、それにたえて、  
いたこと、すこしいことだと思いました。「ヒロシマの9月9日」という本を  
出版するくらい大変だったんだなと思いました。

池田さんは、お父さんの話を、いろいろな人に伝えて、すこしいかた  
ないと思います。戦争は、もう二度とあきてほしくないと思  
いました。

宮崎 杏葉

～平和の話を聞いて～ 池田先生へ

私は、戦争の話を聞き、その時のことを想像してみました。爆心地は、とても熱く部屋のクーラーの涼しさを忘れ、自分自身がカーッと熱くなるような感じでした。

その現場の状況を聞き、原爆がどれだけ怖いものか、そして、やけどをおった人の気持ちが分かりました。もし、自分が爆心地付近にいたら一瞬で自分の存在を消すのか、それとも大やけどをおい「水をくれ」と頼むのか、想像するのが怖くなってきました。

池田さんのお父さんの、とても人の気持ちを考えて、少しでも助けようという気持ちにとっても尊敬しました。いつか自分も池田さんのお父さんみたいになりたいです。

改めて、言いますが広島原爆を体験をしたかたのお話を聞くのは、自分達にとって、すばらしい体験をしたなと思います。

4年生の頃、広島原爆の被爆者の方が来られてお話をしてもういました。その時は、被爆者としての話が聞けて、自分は、兵隊さん側からのお話と被爆者側からのお話。

原爆体験の2種類のお話を聞くことができました。

私は、これから、8月6日には、冥福を祈り、そしていつか原爆資料館や原爆ドームに行き、もっと原爆のことを知りたいです。

また、人のことを考えて、少しでも人を助けようという気持ちを持っている池田さんのお父さんみたいになりたいです。

今回、広島原爆について話していただき、本当にありがとうございました。

6年3組 榎木 結花



## 平和の話

私は、いろいろなことを感じました。戦争のつらさとおそろしさきつとみんな大変だったと思います。皮がはがれたり、血がでていたりと思 ぞうするだけでもとてそこわかったです。でも、私たちより、池田のお父さんのほうがとてそこわかったと思います。人を助けることだけをがんばっていた池田のお父さんはすごいと思います。人が何十万人も死んでしま、てとてもさげなです。私は、そんなに多くの人間をよく殺せるなと思いました。今だったら死刑されるというわけいば「つか」あたえられるのに」と少し悔しいです。やっぱり命と言う物1回きりしかつかえなくて、その人その周りの人がとても苦しみ悲しむのたと思います。私はそういう体けんをしたくはないけど、いざれば死んでしまうということも考えると生きていくのにもこわくなりました。広島におちたばくだんをし、てながさまにおちたばくだんは死んでしま、た人。そしてしんせき、今生きている人 未来の人にまでつらい思いをさせるとてとても大きなばくだ、んだったと思います。私も池田さんの言葉が強、く心のおくにひびきました。

## 平和の話を聞いて

平和の話は、最初どんな話なのかわかりませんでした。しかし今までいろいろな話を聞いてきたので、いとお世話なおなような話だろうと思っていました。話は5時間目でした。なのでちょうど給食がおわってぬむくなるころです。私はぬむたくてしかたがありませんでしたが授業なので聞くことにしました。コンピュータ室にいくとますます涼くてぬむりそうでした。でもかみば、て聞いているとなんかか聞こうという気持ちが出てきました。ひさんなことか、いはいできてきました。たとえば黒いけになった人間やひふかいはかぬあちることを聞いていたらぬむくなくなりました。聞きたくないことかたくせんありました。でも耳をふさげませんでした。その人はそれからどうなったのかたすかったのかかしりたかたからです。その人の所でもとってもしやな気分になりました。おゆ、てからいろんなことを考えました。どうし少しのウラにたけであんなはかい力をもっているのかや、いしんで広島かぼろぼろになってしまったのかなどかたとておふきでした。でも反対にけんばをとおとしたほうもいい気持ちだ。とは思いません。

先生は1番こいのか体験すること、二番目にこいのかかづで本を読むこと、1番ぬくないのか映画などで、見ることかといっていました。たしかにひくくするだけかと思うしぬく見せたか"けた"と思います。映画で見るだけでしたことになるので、はたなく人の話を聞いてほんとうにしたことになると思います。

中山 惠莉葉

作日の池田先生の話を聞いて思った事は、今は日本は戦争をしないからとても平和なのだ  
とあらためて感じました。独特な雲も、強い  
放射線も、熱も、強風もどれたけすごいも  
のだったかは実際、そこにいた人しか分からな  
いと思います。鉄がとける温度よりもずっと高  
い温度、2つのとても強い風、あびると体に  
害をおよぼす放射線はどの場にいる人し  
かわからない苦しさをどうも思います。  
池田さんのお父さんは兵隊で、被害者の  
すがたを見た時、どうしようもなく、とても苦  
しかつたと思います。それも私たちには、  
感じられない苦しさを、たと思います。死  
んだ人を背負い、それを焼く、というのは私  
はとてもたえられなく、にげていたかもしれな  
いと思います。それをたえ、任務をし、かり  
とやったのはすごいと思いました。戦争がお  
わった後、同じ班の兵隊たちが次々と亡  
ていったと聞き、はく原地にたたくても、放  
射線などにあびれば、体がこわされ  
てしまうという事がわかりました。も  
し機会があれば、たら、ヒロシマの九日間  
を讀んでみようと思いました。ヒロシマの  
九日間を讀んで、もっと考えを深めてい  
きたいと思います。

杉下 美香子

## 平和の話しを聞いて

私は、原子はくた"んが"広島や長崎におちて大きな被害にあったということは知っていました。けれど、あんなに大変なことな"た"なとあらためて知りました。

原はくドームでの話しで、写真や人形などを見てなんにも言わなくて、ぜんぜん似ていないということは、現実の方が知"た"ちが思っている以上にこわいことが分かりました。

生きている人を世お"いて"いる時、なによりもしあかせ"た"た"と"い"って"いた"けれど"そんな"に"原"は"く"た"ん"で"亡"く"な"た"人"は、"す"こ"い"、"華"に"な"、"て"い"た"の"た"な"と"思"っ"て"が"わ"い"そ"う"に"思"い"ま"じ"た。

原子はくた"ん"であ"た"て"亡"く"な"た"人"は、運"が"悪"か"た"の"か"な"と"思"い"ま"し"た。

原子はくた"ん"は、少"な"い"量"の"薬"品"で"多"く"の"人"の"命"を"う"ば"っ"た"の"で"い"づ"く"た"人"は、頭"は"良"い"か"も"し"れ"ば"い"け"れ"ど"、"そ"の"人"は"い"い"こ"と"か"後"に"な"い"と"思"い"ま"す。

私は、生"き"て"い"る"人"が"い"て"良"か"た"な"と"思"い"ま"し"た。"も"し"と"生"き"て"い"る"人"が"い"い"な"か"、"た"ら"私"達"が"い"い"な"い"か"ら"で"す。

広島"の"丸"目"留"を"見"て"み"た"と"思"い"ま"し"た。

あ"と"、原"は"く"ド"ー"ム"に"と"い"っ"て"み"た"と"い"う"で"す。

町田美穂

## 平和の言

私は、昨日の言話を聞いて、戦争のおそろしさを  
知りました。

遺体のかいしゅうや、いろいろな事<sup>こと</sup>をしているのが、  
軍の命令<sup>めいれい</sup>なのではない事<sup>こと</sup>だから戦争は  
こわいのだね<sup>な</sup>〜と思います。

戦争は、同じ人類<sup>じんるい</sup>をこらし合うことは、怖いと  
思います。

私はこの話をきいて、もう戦争はどこの国も  
してほしくない<sup>ほしくない</sup>と思いました。

戦争は多くの人<sup>ひと</sup>もなくなるし、殺した方<sup>かた</sup>の人  
も、あまりいい気分<sup>きぶん</sup>にはならないと思<sup>おも</sup>つからです。  
でも、国<sup>くに</sup>のために、たたかう人は、とても勇気<sup>ゆうき</sup>に満  
ちあふれていると思<sup>おも</sup>います。

池田<sup>いけだ</sup>さんのお父<sup>ちち</sup>さんはとても運<sup>うん</sup>のつよい人<sup>ひと</sup>だ  
と思<sup>おも</sup>います。

ドラム缶<sup>ドラムか</sup>に守<sup>まも</sup>られたりするのは神<sup>かみ</sup>が守<sup>まも</sup>ってくれて  
いたのだと思<sup>おも</sup>いました。

實際<sup>じっさい</sup>体験<sup>たいけん</sup>したお父<sup>ちち</sup>さんはとても怖い思<sup>おも</sup>いを  
したと思<sup>おも</sup>うので、ぜひその経験<sup>けいけん</sup>をいかして

ぜひまたその話<sup>わ</sup>をしてほしいなと思<sup>おも</sup>いました。

昨日<sup>きのう</sup>は戦争<sup>せんそう</sup>のおそろしさを教<sup>おし</sup>えてくれて、本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>  
にありがとうご<sup>ご</sup>さい<sup>さい</sup>しました。話をきいて、これから  
戦争<sup>せんそう</sup>がない未来<sup>みらい</sup>を作<sup>つく</sup>ってきたいと思<sup>おも</sup>います。

吉岡 美佑

平和の話聞いての感想

ぼくは、今とちがって、今の時代、とちがって、国の命令で、重たがなくてはいけなくて、戦争をしていたことは、とて大変だ。たんだなと思いました。

僕は、原子爆弾の爆心地の近くには、一匹の虫もいなくて、それがまだけたときいて、原爆は、とて、想像以上の、おそろしい物だと思いました。

原爆を落とされた飛行機がすぐにはげたのに、おげまがまたと、言っていたと聞いて、びっくりしました。

原爆によ、川に飛ぶ、んだ時に、原爆の熱さに、川の水が、おと、ゆが、だ、こ、み、たい、にな、て、お、た、ま、い、と、と、ま、か、め、い、え、う、で、した。

それ、焼か、れ、て、し、ま、つ、た、人、は、国、の、命、令、だ、か、ら、仕、方、な、い、か、と、思、つ、た、け、ど、と、て、ま、か、め、い、え、う、だ、と、思、い、ま、し、た。

死んでしまった人の、お、か、が、さ、が、れ、て、骨、が、切、れ、し、ま、つ、た、と、聞、い、て、ど、く、り、し、ま、し、た、が、一、せ、か、い、と、お、ど、く、な、つ、た、と、き、い、て、

三井義典